



独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター
トランスレーショナル・メディカルセンター
Translational Medical Center (TMC), NCNP

Meet the Expert (公開講座)

演 題：精神保健の疫学研究：その楽しみと広がり

講師：川上 憲人

profile

東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻
精神保健学分野 教授



専 門：職場のメンタルヘルス、精神保健疫学、行動医学

学会その他における活動等

- 国際産業保健学会 (ICOH) 理事
- 国際行動医学会理事長
- 日本産業ストレス学会理事・副理事長
- 日本産業精神保健学会理事
- 日本行動医学会理事
- 日本ストレス学会理事
- 日本産業衛生学会評議員
- 日本疫学会評議員

著 書

川上憲人、小林廉毅、橋本英樹（編）. 社会格差と健康：社会疫学からのアプローチ. 東大出版会

川上憲人、堤明純（監修）. 職場におけるメンタルヘルスのスペシャリストBOOK. 東京：培風館, 2007.

原著論文約170編 以下代表論文

Biol Psychiatry. 2012 [Epub ahead of print]

J Psychiatr Res. 2011 Apr;45(4):481-7.

PLoS Med. 2009 Aug;6(8):e1000123.

日 時：平成25年2月22日（金）17：15～18：00

場 所：国立精神・神経医療研究センター
研究所3号館セミナー室

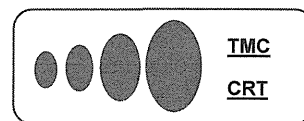
独立行政法人国立精神・神経医療研究センター
トランスレーショナル・メディカルセンター事務局
mail:tmccrt@ncnp.go.jp

電車をご利用の場合

- ◆西武新宿線拝島行または西武遊園地行きにて荻山駅（南口）下車、徒歩7分
- ◆JR中央線国分寺駅乗換、西武多摩湖線萩山駅下車、徒歩7分
- ◆JR中央線国分寺駅乗換、西武多摩湖線青梅街道駅下車、徒歩8分
- ◆JR武蔵野線新小平駅下車、徒歩10分

TMCNews

Translational Medical Center News



NCNP Translational Medical Center

Clinical Research Track

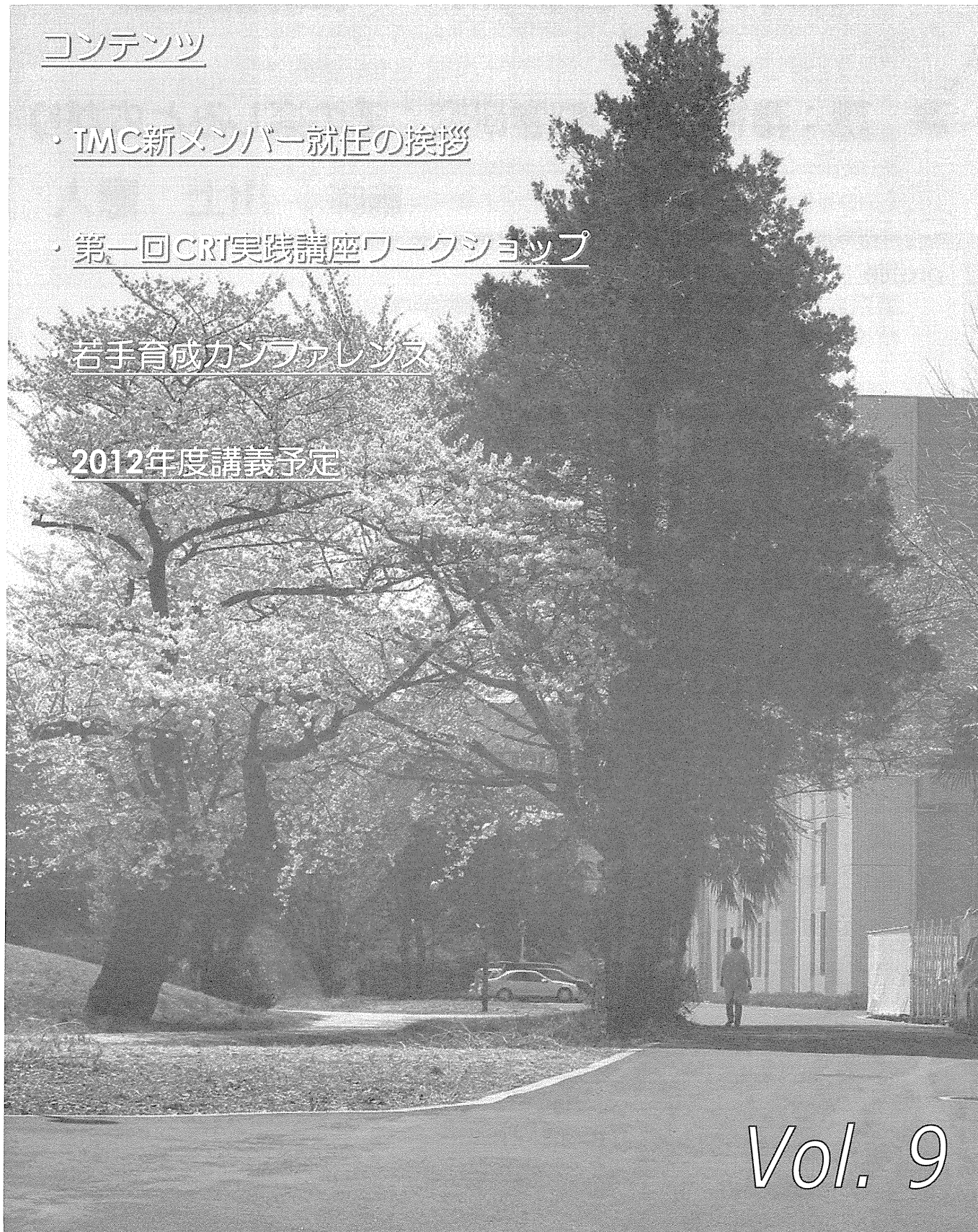
コンテンツ

・ TMC新メンバー就任の挨拶

・ 第一回CRT実践講座ワークショップ

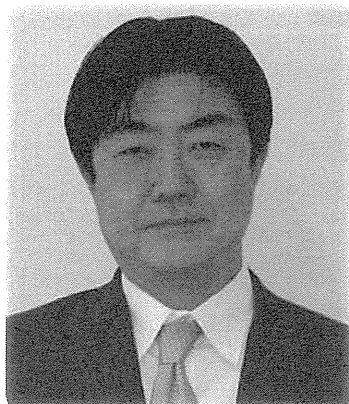
・ 若手育成カンファレンス

・ 2012年度講義予定



Vol. 9

TMC新規着任者 就任の挨拶



臨床研究支援部
部長 中込 和幸

2012年4月1日付でTMC臨床研究支援部長を拝命いたしました中込と申します。現在、治験管理室長と併任という形をとっており、病院とTMCに片足ずつおかせていただいていますので、TMCの部屋に常駐しているわけにはいきませんが、もとよりTMCの使命を考えますと、これも自然かなと自身では納得しております。

私の研究のバックグラウンドは、認知神経生理学とリハビリテーションであり、研修医時代にデイケアで体験したことが今も私の中で綿々と息づいています。精神疾患患者さんの生活障害やQOLの改善に伴うリカバリーを獲得するためのキーワードとなる認知機能障害の研究に長年携わっており、現在は神経可塑性をターゲットとする認知リハビリテーションに取り組んでいるところです。

現在、わが国では従来から弱点とされてきた臨床研究の活性化を目指して、様々な取り組みが始まっており、NCNPも精神、神経、筋疾患領域における臨床研究の推進に寄与すべく、体制の強化に努めているところです。その中で、臨床研究者が研究に従事できる時間を担保すること、臨床研究者の育成やレベルの向上が重要であることは言うまでもないことですが、臨床研究を支援する臨床研究支援部の強化も平行して行う必要があります。NCNPが国内外機関とのネットワークを通じて、質の高い、患者のニーズに応えられる研究成果を輩出するためには、研究支援の専門家を確保、育成していく必要があります。一方、医学専門家の立場から、臨床研究の相談に応じたり、若手研究者の育成なども重要課題と捉えております。

臨床研究支援部長といいましても、臨床研究支援体制については、いまだ修行中の身であり、神経、筋疾患の診療に携わったこともありませんので、多くの方々のご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

出身：兵庫県、西宮市に出生。高校時代まで兵庫県、大阪府で生育。東京大学1984年卒業。

ゆかりの地：鳥取県米子市、地域医療の厳しさを身にしみて感じた地。

趣味：映画鑑賞、（以前は）ゴルフ。

好きな食事：ノドグロの焼き魚

家族：妻、長男と3人暮らし

住まい：練馬区

モットー：自他共栄

夢見ること：断酒、家庭内平和



臨床開発部
室長 本村 和嗣

4月1日付でTMC 臨床開発部 先端診断技術開発室に着任した本村和嗣（もとむらかずし）です。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。トランスレーショナル メディカルセンターは、基礎研究と臨床現場とのcrossing point(交差点)、交流の場だと考えています。人的、知的、物的の交流が活発に行われるために、基礎研究と臨床現場の垣根を低くし、得られた知見を最終的に患者さんに還元できることを願っています。

テーマ：次世代型シークエンサーを用いた疾患病態解析、候補変異と病原性検証実験

好きな言葉：和を以て貴しと為すが、和して流れず

趣味：（1）城郭巡り（織豊期における近世城郭築城様式の確立について興味があります）、（2）古書収集、（3）刀剣鑑賞

出身：長崎県長崎市出身。1996年長崎大学医学部卒業。長崎大学 熱帯医学研究所内科部門入局。

ゆかりの地：（1）東京、（2）米国メリーランド州フレデリック市、各地で基礎研究の重要性、醍醐味を教えてもらいました。長崎大学の医局の先輩や後輩、また、東京、米国で知り合った友人、指導していただいた先生方は財産です。

居住地：近隣地域に家族、猫1匹、金魚5匹と在住

どうぞ、ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。



臨床研究支援部 清水 玲子

ずっと小児科医として仕事をしてきたのですが、アメリカで仕事をいただく機会を得て、それがTMCのお仕事につながったのは何かの縁だと思っています。頑張っていきたいと思いますのでどうぞよろしくお願いいたします。

今年度より病院小児神経科から異動になりました。これまでに得た臨床的知識を生かし、未だ解明されていない筋疾患の病態の解明や、治療法の開発に貢献したいと思います。



臨床開発部 遠藤 ゆかり



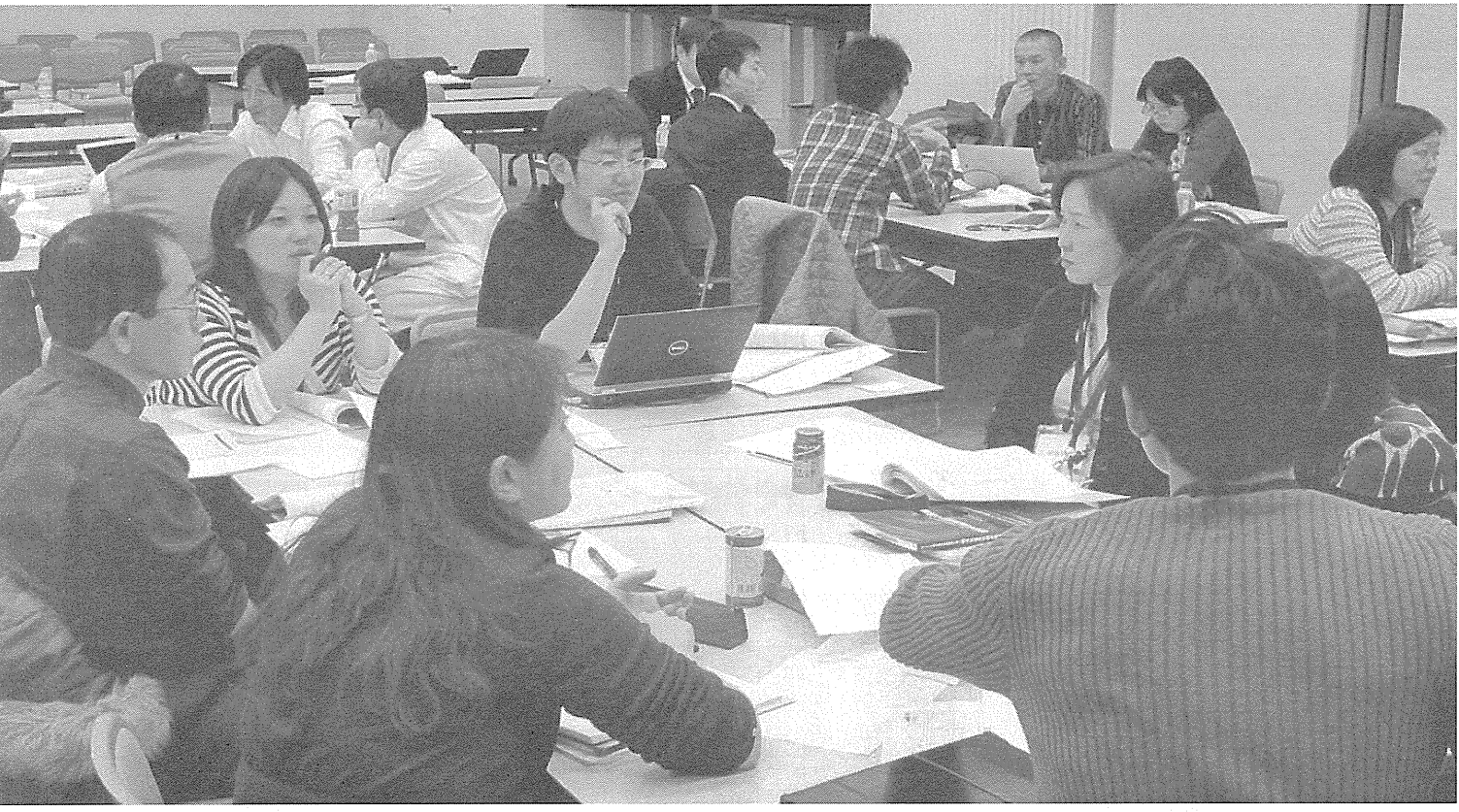
臨床開発部 漆葉 章典

神経内科の臨床医として主に神経・筋難病の診療に携わってきました。今後は基礎医学の手法や知見を活用し、より正確な病態把握・診断、より効果的な治療法の開発に尽力します。

TMCでの毎日は、臨床研究について多くを学び、実践できる貴重な時間になります。それを少しでも還元できるように努力してまいります。皆様、どうぞご指導のほどよろしくお願い申し上げます。



情報管理・解析部 野口 普子



第1回 CRT実践講座ワークショップ

2012年2月16日（木）、17日（金）、第一回CRT実践講座ワークショップを開講しました。本セミナーは2011年6月に開講された入門講座ワークショップの実践編という位置づけであり、より実践的な講義と演習を行いました。また、参加者29名のうち、17名がセンター外からの受講者となりました。

演習「臨床試験のプロトコルを書く」

演習「模擬ピアレビュー委員会」

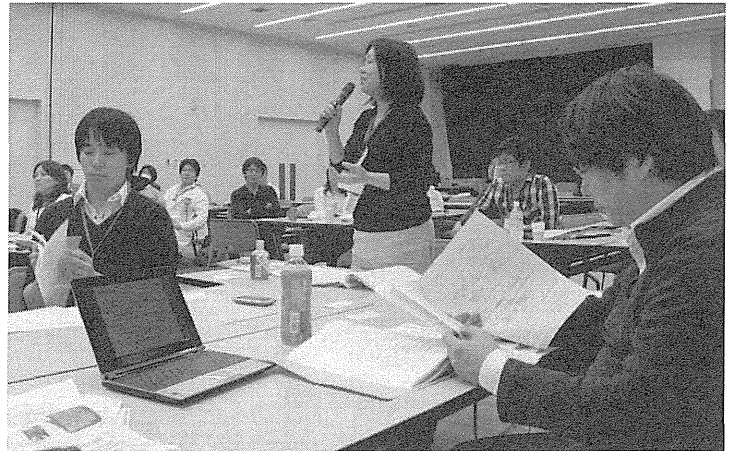
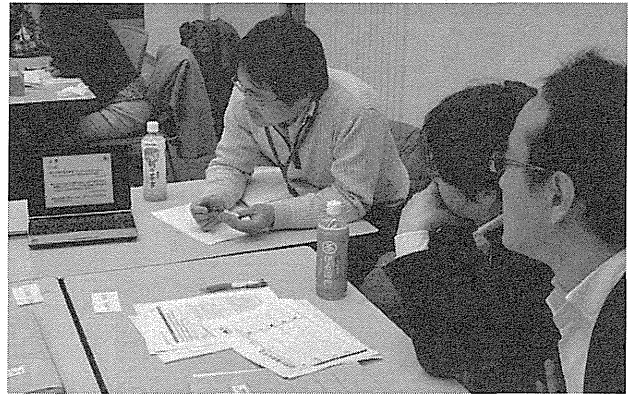


本実践講座ワークショップでは研修生をそれぞれの専門ごとに4～6人ずつ6つのグループに割り振り、臨床試験のプロトコルを作成する演習を二日間に渡って行いました。

1日目は各グループごとに、それぞれの受講者が持ち寄った臨床疑問を吟味し、研究課題の設定を行いました。次に研究デザインを決定するためにP（どんな患者に）E（何をすると）C（何に対して）O（どうなるのか）を検討しました。

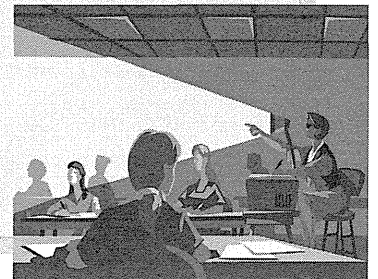
受講者の感想

- ・ 様々な分野、施設の方と交流ができた
- ・ 実習が面白かった
- ・ 臨床研究を行う意欲が湧いた
- ・ 雰囲気が良かった
- ・ 臨床研究の大きな流れが理解出来た



2日目は設定されたPECOを元に具体的な研究デザインについて検討を行いました。また、プレゼンテーションソフトウェアによる発表資料の作成を行い、模擬ピアレビュー委員会に備えました。

模擬ピアレビュー委員会では、各グループの代表者によるスライドを用いた10分程度の研究概要についてのプレゼンテーションを行いました。また、5人の講師及びファシリテーターが委員役となり、研究デザインや倫理的なポイントについて質疑を行いました。また、会場の受講生からも活発な質疑やコメントがなされ、大きな盛り上がりを見せました。



1日目1時限：臨床試験の目的設定を考える

中林先生は、臨床試験の目的設定を考える上で4つのテーマについて概説されました。まず、介入方法の臨床的位置づけを考えること、どの段階（探索的段階、検証的段階）から臨床試験を開始するかについて考えるという視点から研究コンセプト（目的）の明確化について説明されました。

次に、試験計画の基本的考え方、疾患領域に特異的な課題を精査すること、試験成績の信頼性の評価について解説していただきました。



PMDA審査専門員・スペシャリスト

中林 哲夫

1日目2、3時限：臨床試験をデザインする

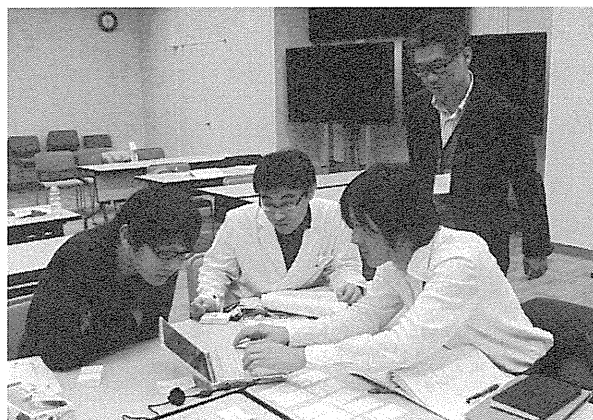


同志社大学 准教授

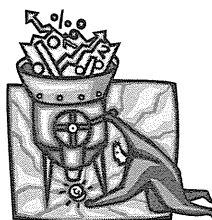
大森 崇

臨床研究をデザインする上で、統計学的な知識・手法は必要不可欠なものとなっています。本講義前半（2限目）では「薬が効くとはどういうことか」つまり薬の効果の有無を実証するために、対象群の設定やバイアスについて考慮することの必要性を分かりやすくご説明頂きました。

講義後半（3限目）では模擬患者のデータを印刷したカードと無償の統計解析ソフト「R Commander」を用い、2群間比較を実際に行いました。また、研究計画をデザインする上で必須となるサンプルサイズ的设计についても、演習を行いました。



パソコンを使った
解析演習



カードを用いて
ランダム化割付



1日目4時限：エビデンスの名の下に行われる悪行の数々

(偽エビデンスにだまされないために)

医師は出版物として公表された研究成果を元に治療方針を決定しますが、そのデータは本当に真実を反映しているのでしょうか?という問いかけから始まり、ポジティブな結果が出ている論文ほど雑誌に掲載されやすく、ネガティブな結果となった論文についてはほとんど公表されないという出版バイアスを中心に、講義の前半ではお話をしました。

講義の後半では対照群や代替エンドポイントなどの設定によって真実ではないエビデンスが生じた例をご紹介頂いた上で、今後の医学が向かうべき方向として「メタトリアル」と「ネットワークメタアナリシス」についてお話をしました。



京都大学 教授

古川 壽亮

Towards a new paradigm of clinically credible science



NCNP

臨床研究支援アドバイザー

細井 薫

2日目1時限：研究データの品質管理と品質保証

臨床研究の価値は、いかに画期的であるか、いかに社会に役立つかといった視点で評価されることが多いわけですが、研究の品質管理と品質保証を行い、信頼性が確保されなければその価値を失ってしまいます。

講義では、求められる品質はその目的によって変化するとの前提をお話し頂き、治験における一般的な実施体制をベースに臨床研究の品質管理と品質保証を行うためには、どのような体制を整備する必要があるかについて、詳しくご説明頂きました。

2日目2時限：精神科臨床試験の実践と課題

渡辺先生はコクラン共同計画のうつ・不安・神経症グループ（CCDAN）の研究者として数々の業績をあげられた新進気鋭の研究者です。

本講義では臨床研究の実例として、ご自身が行ったうつ病に伴う不眠に対する短期睡眠行動療法プログラム（bBTi）の効果を検証した多施設共同ランダム化試験について、研究の流れと結果、そして研究の問題点とその対策についてご説明頂きました。

実際に行われた研究を題材にしたリアルな体験談をお話頂けたことから、受講者からは非常に好評を頂きました。



名古屋市立大学大学院 講師

渡辺 範雄

2日目3時限：臨床試験の倫理



東京大学 特任助教

田代 志門

臨床研究で最も信頼性が高いとされるプラセボ対照ランダム化比較試験（RCT）だが、被験者に対する公平性の欠如などの批判もある。国立精神・神経医療研究センターで開催された臨床研究の実践・倫理講座で、東京大学大学院医療倫理学の田代志門氏が登壇し、長年にわたる論争のポイントを解説するとともに、「被験者のリスクの低減や、試験終了後の追加のケアを提供することを考慮すべき」と述べた。（中略）最後に、同氏は「個人的には倫理的均衡にはこだわるべきではないと考える。むしろ、研究デザインを修正して被験者の不利益を低減したり、外来患者ではなく入院患者で安全措置を高めたりするなど、可能な限り被験者に対するリスクが最小化できているかを厳しくチェックすべきではないか。また、試験終了後の追加のケアを提供することを、あらかじめ研究デザインに組み込むことも重要ではないか」と締めくくった。

～Medical Tribune 2012年2月22日より抜粋～

精神・神経医療を専門とする
医療者・研究者のためのeラーニングサイト

CRT-web

それぞれの講義内容はeラーニングサイト「CRT-web」にて順次公開の予定です。都合により参加が難しかった方、もう一度聞いてみたいとお考えの方は是非この機会にご視聴下さい！

<http://www.crt-web.com/>



第2回TMC入門講座「グループワーク」 臨床研究デザインコース入門編開催のお知らせ

本ワークショップは、臨床研究に関心のある医師、コメディカル、医学系研究者の方を対象に、臨床技能の質を高める上でも大切な臨床研究の基礎や研究倫理を学んでもらうことを目的とします。

講義と小グループによる演習を通して、漠然とした臨床疑問を構造化されたりリサーチ・クエスチョンとして変換し、グループ単位で発表します。

概要（到達目標）

臨床研究の意義について理解すること

臨床疑問を研究可能なリサーチ・クエスチョンとして変換できるようになること

7月5日（木）	内容	7月6日（金）	内容
13:00～13:10	①開会の挨拶	09:20～10:10	⑥嚥下障害患者の診療が臨床研究になるまで
13:10～14:20	②臨床研究の歴史、意義、研究の形式化	10:10～11:10	⑦脳卒中領域における臨床研究について：神経超音波と脳卒中診療体制の構築
14:20～15:20	③演習「臨床疑問を整理する」	11:10～12:30	⑧演習「リサーチ・クエスチョンとして定式化する」
15:20～15:30	休憩	12:30～14:00	休憩
15:30～16:30	④臨床研究のデザインと統計学	14:00～15:00	⑨研究倫理ガイドラインの近年の動向 (倫理講座：更新対象講義)
16:30～17:30	⑤臨床研究の歴史と基本原則 (倫理講座：新規対象講習会)	15:00～15:10	休憩
		15:10～17:10	⑩演習「模擬研究テーマ発表会」
		17:10～17:30	閉会の挨拶、修了証書の交付

特別講師

- ⑦ 井口保之 川崎医科大学脳卒中医学教室 准教授
⑨ 田代志門 昭和大学 研究推進室 講師

開催日時：2012年7月5日（木）～6日（金）

場 所：研究所3号館 セミナールーム

定 員：50名（予定）申し込み順 定員になり次第受付終了

対 象：臨床研究に関心をもつ研究者、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、心理士等のコメディカル

登 録：センターTMCHPより（<https://ncnp.smktg.jp/public/seminar/view/31>）

※⑤、⑥、⑦、⑨の倫理講座及び特別講演については登録者以外も聴講できます
問い合わせ先：TMC事務局（内線：7821、E-mail：tmcrcr@ncnp.go.jp）



第15回 若手育成カンファレンス報告書

2011年12月2日、第15回若手育成カンファレンスとして、若手研究グループ（病院 看護部）の大柄昭子さん、精神保健研究所 薬物依存研究部の富山健一さんより発表が行われました。

「看護の仕事量測定に関する系統的文献レビュー」



若手研究グループ
（病院 看護部）
大柄 昭子

患者に対して提供する看護の業務量を適切に調整することは、看護の質を保証するために重要な課題ですが、我が国ではその評価測定のための統一された方法は未だ確立していません。そこで大柄さん達は看護の仕事量を測定評価した調査研究に対してレビューを行い、再現性・信頼性に優れた調査方法を明らかにすることを試みました。

「医中誌Web」掲載文献に対して看護量を測定評価することに焦点を当てた文献のみに絞り込みを行ったところ、検索文献全2022件のうち、38文献が内容評価の対象となりました。しかし、大半が継続的な研究が行われておらず、また、信頼性や妥当性が示されていない文献が多く認められました。これは「看護量の評価方法は確立していない」との前提を裏付ける結果となり、質疑応答では「是非大柄さんたちのグループで調査方法を確立し、今後の日本の看護業界を牽引してほしい」との意見が示されました。

「違法ドラッグ（脱法ドラッグ）の依存性

および細胞毒性の評価法について」

近年、我が国で大麻に似た作用をもたらす合成カンナビノイドが流通し、社会問題となっています。合成カンナビノイドの一部は規制薬物としての指定を受けていますが、合成カンナビノイドには多数の類縁化合物が存在するため、一部を規制しても次々と別の薬剤が流通するという悪循環が続いています。

富山さんからは動物に対する条件付けを行い、類似の薬物効果を示す物質を識別する薬物弁別試験及び、培養細胞を用いた毒性評価についての研究結果をご発表頂きました。また、これらの試験の有用性が認められ、富山さんが示したデータから複数の物質が規制薬物指定を受けたことも併せてご報告頂きました。



精神保健研究所
薬物依存研究部
富山 健一

第16回 若手育成カンファレンス報告書

2012年1月6日、第16回若手育成カンファレンスとして、若手研究グループ（病院リハビリテーション部）の坂元千佳子さん、神経研究所の北條浩彦さんの両名より発表が行われました。

「パーキンソン病に対する運動療法LSVT®BIGの効果」



若手研究グループ
(病院 リハビリテーション部)
坂元 千佳子

LSVT®BIGは米国で開発されたパーキンソン病（PD）患者に対する運動療法であり、海外ではPD患者の運動症状に対する有効性が確認されています。そこで、坂元さんらは本邦におけるLSVT®BIGの有効性及び安全性について検討を行いました。その結果、15例中14例の被験者に運動機能及び精神機能の改善が認められたことから、本運動療法が実施可能性の高いものであることが示されました。

また、今後LSVT®BIG実施有資格者を育成するための講習会を開催し、本邦での導入を推進していくことが併せて示されました。



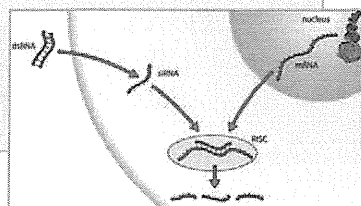
「RNAiの医療応用と現状、そして問題点」

RNAi（RNA interference：RNA干渉）は、小さな二本鎖RNAによる遺伝子発現の転写後抑制現象であり、1998年に発見され、基礎研究分野では遺伝子発現の抑制技術として広く利用されています。しかしながら医療分野での応用については未だに実用化の目処が立っておりません。

北條さんらは次世代のRNAi技術となりうる対立遺伝子特異的RNAiノックダウンの研究開発を行っており、発表ではRNAiの仕組みと性質の解説に始まり、本技術の医療分野への応用の可能性と、Drug Delivery System開発の必要性といった今後の課題についてご紹介頂きました。



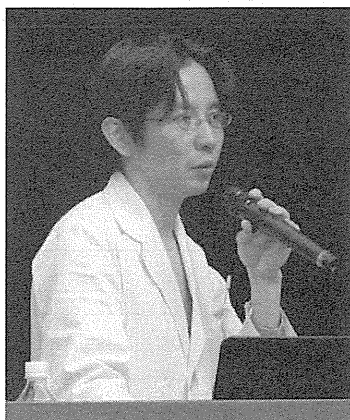
神経研究所
神経薬理研究部
北條 浩彦



RNAi：wikipediaより

第17回 若手育成カンファレンス報告書

2012年2月3日、第17回若手育成カンファレンスとして、病院の野田隆政さん及び若手研究グループ（病院 看護部）の坂本岳之さんの両名より発表が行われました。



病院
第一精神診療部
野田 隆政

「多発性硬化症（MS）で生じる抑うつ症状」

多発性硬化症（MS）は多彩な臨床形態を有する中枢神経系の慢性疾患であり、その多くで抑うつ症状を合併します。これら抑うつ症状は患者のQOLの低下や治療コンプライアンスの低下と関連するため、その介入は大きな課題です。しかし、大うつ病性障害の診断基準のうち、食欲や睡眠の変化や倦怠感、思考力・集中力の低下など、その多くがMSでもみられる症状であり、診断と治療には十分な注意が必要です。

近年、近赤外光トポグラフィー（NIRS）による脳機能マッピングの所見が、精神疾患における臨床診断と高い相関性をもつことが知られており、発表ではMSにおけるNIRS波形の知見を交え、MSでみられる精神症状についてご報告頂きました。



「ストレスケア病棟におけるセミオープン形態での集団認知行動療法の実施可能性の検討」

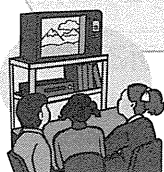
うつ病の入院治療において、抑うつ症状の改善は必ずしも退院とは結びつきません。坂本さんらは入院治療患者における抑うつ症状と社会適応力の変化について調査したところ、入院うつ病患者の退院と社会適応力の改善との関連を認めたことから、退院には自己認識の改善が重要な因子であると考えました。

そこで自己認識を改善するためには認知行動療法が有効であると考え、病棟における様々な患者さんに対応できるよう、入院のタイミングにかかわらずいつでも参加が可能なセミオープン型の集団認知行動療法について研究計画を立案しました。

発表では実際に集団認知行動療法で使用するアニメを用い、具体的な研究方法についてご説明頂きました。



若手研究グループ
（病院 看護部）
坂本 岳之



平成24年度講義開催予定

若手育成カンファレンス（金曜日）17：15～ 会場：コスモホール

自分の研究をNCNP内のいろんな人にもっと知ってもらいたい、NCNPで行われている研究をもっと知りたい、NCNPの人ともっと気軽にディスカッションしたい。NCNPの将来を担う研究者・臨床家・コメディカルがいたく、そんな「もっと」を叶える場となることを期待して若手育成カンファレンスを開催します。そして「もっと」臨床研究が盛んになることを期待します。

	開催日	演題1（若手）	演題2
第19回	5月11日	森まどか（病院 神経研究所）	神経研
第20回	6月8日	伊藤淳子（病院 医療安全管理室）	病院
第21回	9月7日	岩田恭幸（病院 リハビリテーション部）	精研
第22回	10月5日	山野真弓（病院 リハビリテーション部）	神経研
第23回	11月2日	大柄昭子（病院 看護部）	病院
第24回	12月7日	坂本岳之（病院 看護部）	TMC
第25回	1月11日	若手新規グループ	CBT

実践講座・倫理講座開催予定

開催日	演題	講師	会場
5月18日 （金）	研究者のための契約・知的財産（研究成果）に関する基礎知識	東京医科歯科大学 飯田香織里	研究所3号館 セミナールーム
6月5日 （火）	利益相反問題の位置づけと最近のルールの動向 （倫理講座：更新対象講習会）	東京大学 井上悠輔	研究所3号館 セミナールーム
6月22日 （金）	文献検索のABC	TMC 中川敦夫	TMC棟2F 会議室
6月29日 （金）	色覚の多様性とカラーユニバーサルデザイン	東京慈恵会医科大学 岡部正隆	TMC棟2F 会議室
7月5日 （木）	研究倫理の歴史と基本原則 （倫理講座：新規対象講習会）	TMC 松岡豊	研究所3号館 セミナールーム
7月6日 （金）	研究倫理ガイドラインの近年の動向 （倫理講座：更新対象講習会）	昭和大学 田代志門	研究所3号館 セミナールーム
8月3日 （金）	大規模データベースを利用したがん疫学研究	鎌倉女子大学 中谷直樹	研究所3号館 セミナールーム

TMC CRT実践講座開催のお知らせ

研究者のための契約・知的財産(研究成果)に関する基礎知識

開催日：2012年5月18日（金）

開催時間：17:15～

場所：研究所3号館セミナールーム

飯田香緒里 先生 profile

東京医科歯科大学

研究・産学連携推進機構 准教授 産学連携研究センター長

国立精神・神経医療研究センター

TMC ビジネスパートナー室 顧問

2005年 東京医科歯科大学 知的財産本部 知的財産法務（契約）業務に従事

2008年 同本部特任助教

2009年 同本部 教育研究開発支援部門長（兼）

2010年 同本部 特任講師

2011年 同学 研究・産学連携推進機構、准教授・産学連携研究センター長、

医学系大学産学連携ネットワーク協議会（medU-net）事務局長



問い合わせ先：TMC事務局（内線：7821）

TMC CRT 倫理講座開催のお知らせ

利益相反問題の位置づけと 最近のルールの動向



東京大学

医科学研究所公共政策研究分野

助教

井上悠輔

井上先生には昨年の1月28日にも「ヒト試料の研究利用と倫理」についてご講演頂きました。

開催日時：2012年6月5日（火）

17:15～

場所：研究所3号館 セミナールーム

※本講座は「研究倫理に関する研修受講記録制度」に定める「更新対象講習会」となります

問い合わせ先：TMC事務局（内線：7821）

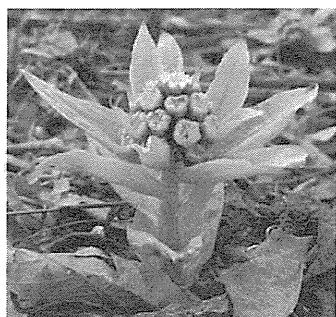
TMCcalendar

4月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	若手	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

5月						
日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	若手	12
13	14	15	16	17	実践	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

6月						
日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	倫理	6	7	若手	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	実践	23
24	25	26	27	28	実践	30

7月						
日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	入門	入門	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				



若手・・・若手育成カンファレンス
 実践・・・実践講座
 入門・・・CRT 入門講座ワークショップ
 倫理・・・倫理講座

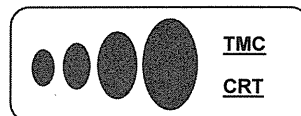
ご意見ご感想はこちら E-mail : tmc-news@ncnp.go.jp

独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター
 トランスレーショナル・メディカルセンター
 〒187-8551 東京都小平市小川東町4-1-1
 TEL.042-341-2711 (代表) /FAX.042-346-1778

編集企画：
 掛井 基徳、中川 敦夫
 松岡 豊
 編集企画協力： 編集顧問：
 石川 有希 武田 伸一

TMCNews

Translational Medical Center News



NCNP Translational Medical Center

Clinical Research Track

コンテンツ

・ 第2回CRT実践講座ワークショップ

・ 実践講座

・ 若手育成カンファレンス

・ 2012年度講義予定

・ TMC新メンバー就任の挨拶

Vol. 10

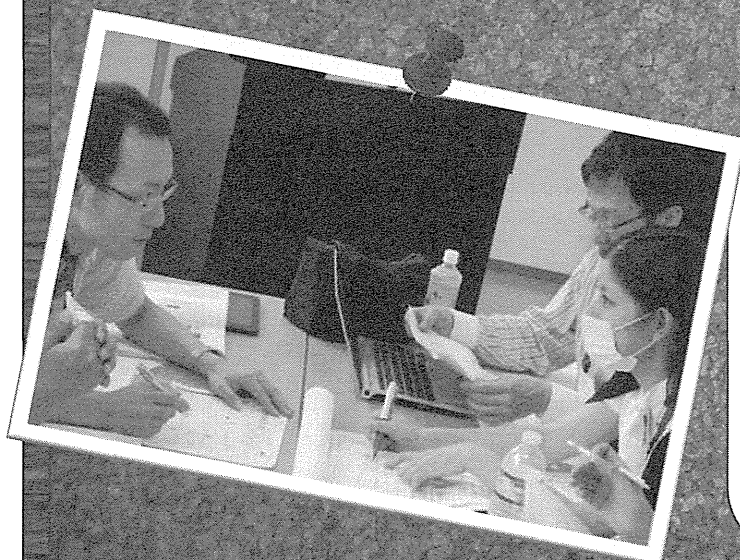
第2回 CRT入門講座ワークショップ

2012年7月5日、6日の日程で第2回CRT実践講座ワークショップを開講しました。センター職員より29名、センター外より17名の合計46名が参加し、精力的にワークショップを実施しました。

演習「臨床疑問を整理する」

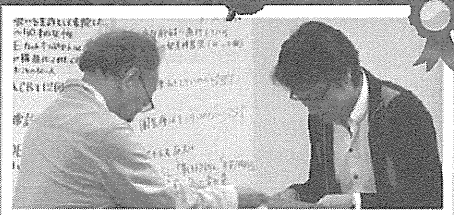
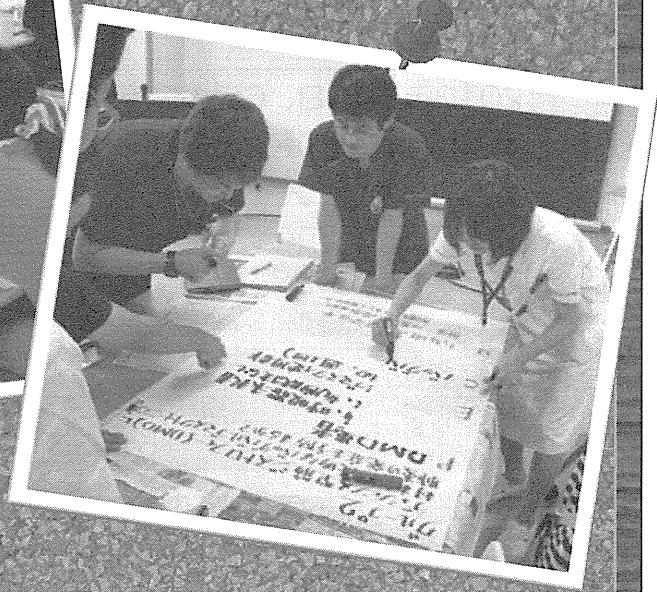
演習「リサーチ・クエスチョンとして定式化する」

演習「模擬研究テーマ発表会」



日々の臨床における漠然とした疑問を研究に昇華するためには、自らの疑問の主旨を明確にし、解明するための筋道を立てる必要があります。

本ワークショップの演習では、それぞれの参加者が持ち寄った臨床疑問をテーマに、研究としての骨子を組み立てることを目標にグループディスカッションを行いました。



グループディスカッションにおいて、臨床疑問はPECO (Patient or Problem、Intervention / Exposure、Comparison、Outcome) の形に構造化を行い、ポスターを作成しました。演習の最後に、作成したポスターを基に発表会を行い、各グループが抱いた臨床疑問をどのように研究として成立させるかにつき意見の交換を行いました。

日程の締めくくりとして、武田TMCセンター長より受講者一人一人に対して修了証の授与が行われ、充実した二日間は幕を閉じました。